様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１５日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０３２００４０
研究課題名（和文）　日本国外に現存する日本漢籍の総合的研究

研究課題名（英文）　Comprehensive Research on Japanese *Kanbun* Materials outside Japan

研究代表者
佐藤　道生（SATOU　MICHIO）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：60215853

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本漢籍の中で明治期以降日本国外に所在を移し、現在も国外の公共機関に所蔵されるものについて書誌調査を行なうことを目的とする。２００８年度から２０１１年度にかけて調査を実施した国外の日本漢籍所蔵機関は８箇所で、その内、アメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の日本漢籍については目録を編集し、貴重書の解題を作成した。

研究成果の概要（英文）：The goal of the present research has been to conduct a systematic bibliographic investigation regarding Japanese *kanbun* texts that have left Japan since the Meiji Period and that are currently preserved in publicly accessible institutions overseas. We conducted investigations into 8 institutions from 2008 to 2011. Among these we compiled a catalogue of Japanese *Kanbun* materials preserved in C. V. Starr East Asian Library, University of California Berkeley, and wrote bibliographic notes of the rare book holdings of the Library.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	3,600,000	1,080,000	6,480,000
2009 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2011 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
総　計	11,800,000	3,540,000	15,340,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：漢籍、日本漢学、書誌学、カリフォルニア大学バークレー校

１．研究開始当初の背景

日本は古来、中国文化の影響下にあり、絶えずこれを積極的に学んできた。中国文化を受容する方法とは、具体的には漢籍を学習することである。それ故日本には中国から直接に、或いは朝鮮半島を経由して多くの漢籍の写本・刊本が将来され、日本国内に於いてもその書写・刊行が盛んに行なわれた。また日本人は自らも漢語漢文を用いて著述を為した。これら日本国内に在って日本人が利用し

た漢籍を総称して日本漢籍と呼称する。日本漢学（中日比較文学）の研究は、この日本漢籍の研究を前提として成り立つものである。日本漢籍はその全てが日本国内に存在するものと考えられがちであるが、実は日本国外にその所在を移しているものが極めて多く、その中には日本国内にはすでに亡佚したものや国内資料を補完するものが散見されるのである。したがって、それら日本国外に現存する日本漢籍の調査研究を行なうことは、日本漢学の研究を発展させる上で、喫緊の課題なのである。

２．研究の目的

本研究は、日本漢籍の中で明治期以降に海外に持ち出され、現在も海外に所蔵されているものについて、網羅的な調査を行ない、その目録を作成して書籍一点ごとに書誌情報を示し、善本と考えられるものについては詳細な解題を付することを目的とする。

３．研究の方法

（１）本研究では、主に次の４項目を柱として調査を進める。１、原本書誌情報及び書影を収集するための国外出張。２、目録・書誌情報・解題の作成。３、日本漢籍の流通（主としてその海外流出）に関する多角的な分析作業。４、原本書誌情報と解題の内容を厳密ならしめるために、研究書・図録等を備える。

（２）以下、各年度に分けて書籍調査及びその関連活動について記す。

（２）２００８年度。

①２００８年７月２１日から８月１日にかけてイタリア・ヴェネツィア大学で開催された漢学ワークショップに佐藤道生（研究代表者）・住吉朋彦（研究分担者）・堀川貴司（２００８年度・２００９年度は連携研究者）・山田尚子（研究協力者）が講師として参加し、日本漢籍の資料的価値を多角的に報告するとともに、欧米・東アジアに所蔵される日本漢籍に関する情報の収集に当たった（科学研究費補助金による出張は佐藤道生のみ）。

②２００８年９月１１日から２２日まで、住吉朋彦がアメリカ合衆国・シカゴ大学東アジア図書館、同国ニューベリー図書館、フィールド博物館図書室に於いて調査を行なった。

③２００９年１月２６日から２月１日まで、佐藤道生・堀川貴司・山田尚子がイギリス・大英図書館に於いて調査を行なった。

④２００９年２月２８日から３月１５日まで、住吉朋彦がアメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館に於いて調査を行なった。

⑤２００９年３月２３日から２８日まで、佐藤道生・山田尚子が中国・中国国家図書館、同国・科学院図書館に於いて調査を行なった。

（３）２００９年度。

①２００９年７月１９日から８月１日まで中国・北京外国語大学で開催された漢学ワークショップに佐藤道生・住吉朋彦・堀川貴司・山田尚子が講師として参加し、日本漢籍の資料的価値を多角的に報告するとともに、中国国家図書館、北京大学図書館に於いて調査を行なった。

②２００９年９月１５日から２６日まで、住吉朋彦がアメリカ合衆国・シカゴ大学東アジア図書館に於いて調査を行なった。

③２０１０年２月２１日から２５日まで、佐藤道生・堀川貴司がイギリス・大英図書館に於いて調査を行なった。

④２０１０年３月１日から１４日まで、住吉朋彦がアメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館に於いて調査を行なった。

⑤２０１０年３月１４日から１８日まで、山田尚子が中国・中国国家図書館、同国・科学院図書館に於いて調査を行なった。

（４）２０１０年度。

２０１０年７月１８日から８月１日まで、佐藤道生・住吉朋彦・堀川貴司（本年度より研究分担者）・山田尚子・島田翔太（研究協力者）・山崎明（研究協力者）がアメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館に於いて調査を行なった。

（５）２０１１年度。

２０１２年１月２９日から２月５日まで、佐藤道生・堀川貴司・山田尚子がアメリカ合衆国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館に於いて調査を行なった。

４．研究成果

（１）２００８年度から２０１１年度にかけて調査を実施した日本漢籍所蔵機関は、アメリカ合衆国・シカゴ大学東アジア図書館、同国・ニューベリー図書館、同国・フィールド博物館図書室、同国・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館、イギリス・大英図書館、中国・中国国家図書館、同国・科学院図書館、同国・北京大学図書館などである。この内、調査の成果を公表したもの（或いは、公表予定のもの）について（２）（３）に記し、今後の展望を（４）（５）に記す。

（２）カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の日本漢籍の内、仏教書籍を除く善本１１２種を抽出して目録を編集、その中から日本における伝来過程に特色のある１５種を選んで解題を附した（５の〔雑誌論文〕の１）。この解題中の１０種については、図書館の協力を得て、図版３２枚を附し、比較対照の便宜とした。このうち、例えば明弘治１８年（１４９５）刊行の『大明一統志』は、天順５年（１４６１）序刊本を覆刻した書坊の産であるものの、１６世紀までに朝鮮半島に転じ、約１世紀止まったのち、１７世

紀以前に日本に再転、３世紀にわたり日本の漢学者の参考に供されたが、近代の動乱を経て米国に三転したことが知られる。こうした版本の伝来に対する研究成果は、漢籍流動の経過を明らかにし、文化史の基盤的変動の一斑を窺わせる。
（３）カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の日本漢籍中、仏教書籍については、善本１０６種を抽出して目録を編集、その中から東寺〔嘉吉・文安年間〕刊〔元和〕印『蘇悉地羯羅経』巻中、〔本願寺〕〔室町期〕刊『仏説無量寿経』巻上（伝実如上人題簽）の２点を選んで解題を附した（２０１２年９月刊行予定の『日本漢学研究』第５号に掲載）。
（４）今後はこれまでの調査を踏まえ、資料的価値の高いものについては、詳細な解題を附して学界に紹介して行くことが望ましいと考えている。その手始めとして公刊を計画中の日本漢籍はアメリカ合衆国・コロンビア大学東アジア図書館蔵、日本慶長４年（１５９９）刊『標題句解孔子家語』（古活字版。訓点書入れ詳密）である。
（５）本研究に着手した当初は、日本漢籍の善本が将来日本国外にその所在を移すことを全く想定していなかった。しかし、それは極めて楽観的な見通しであった。この数年の間に日本漢籍は国外に大量流出し、今や明治１０年代、昭和２０年代に続き、第三のピークを迎えている。その主たる移動先は中国である。これをマスコミは「文物の里帰り」と称して、歓迎すべき事であるかのように報じているが、これは紛うことなき日本の文化財の国外流出であり、国益を損なう現象に他ならない。この問題には、研究者としてだけでなく、国民として、また国家としてどのように対処すべきかを真剣に論議する時期に来ているように思う。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）
１.住吉朋彦、「カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館蔵日本伝来漢籍目録解題初編」、斯道文庫論集、査読無、第 46 輯、2012 年、p.399-472
２.堀川貴司、「翻刻　慶應義塾図書館蔵『續新編分類諸家詩集』付・他本による補遺―『新選集』『新編集』研究その二―」、斯道文庫論集、査読無、第 46 輯、2012 年、p.351-397
３.佐藤道生、「貴重図書の国外流出」、丸善ライブラリーニュース、査読無、第 13 号、2011 年、p.14-15
４.佐藤道生、「平安時代に於ける『文選集注』の受容」、単行書『注釈書の古今東西』、査読無、2011 年、p.99-120
５.住吉朋彦、「『千家詩選』と『新選集』―国清寺旧蔵本をめぐって―」、斯道文庫論集、査読無、第 45 輯、2011 年、p.99-138
６.堀川貴司、「翻刻　建仁寺両足院蔵『新選分類集諸家詩巻』付・同系統他本による補遺―『新選集』『新編集』研究その一―」、斯道文庫論集、査読無、第 45 輯、2011 年、p.53-98
７.堀川貴司、「『覆簣集』解題と翻刻」、花園大学国際禅学研究所論叢、査読無、第 6 号、2011 年、p.37-62
８.佐藤道生、「国外に流出した日本漢籍の追跡調査」、単行書『慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設５０年記念 書誌学展図録』、査読無、2010 年、p.36
９.佐藤道生、「藤原道長の漢籍蒐集」、単行書『名だたる蔵書家、隠れた蔵書家』、査読無、2010 年、p.15-28
１０.住吉朋彦、「古活字本『古今韻会挙要』考」、斯道文庫論集、査読無、第 44 輯、2010 年、p.159-195
１１.佐藤道生、「故事の発掘、故事の開拓」、隔月刊文学、査読無、第 10 巻第 3 号、2009 年、p.59-69
１２.住吉朋彦、「日本漢学史における五山版」、単行書『中国―社会と文化』、査読無、2009 年、p.224-249

〔学会発表〕（計１件）
１.佐藤道生、「平安時代に於ける『文選集注』の受容」、日本中国学会第 62 回大会、2010 年 10 月 9 日、広島大学

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤　道生（SATOU MICHIO）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：60215853

(2)研究分担者
住吉　朋彦（SUMIYOSHI TOMOHIKO）
慶應義塾大学・斯道文庫・教授
研究者番号：80327668

堀川　貴司（HORIKAWA TAKASHI）
慶應義塾大学・斯道文庫・教授
研究者番号：20229230

(3)連携研究者
陳　捷（CHIN SHOU）
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：40318580

(4)研究協力者
山田　尚子（YAMADA NAOKO）
熊本県立大学・文学部・非常勤講師

島田　翔太（SHIMADA SHOUTA）

慶應義塾大学・斯道文庫・研究嘱託

山崎　明（YAMAZAKI AKIRA）
慶應義塾大学・大学院文学研究科・後期博士課程学生